

●利用者4● 82歳 男性 【独居高齢者の糖尿病管理】

- ✓住まいの整備、清潔保持、食事管理等、生活全体の支援ができた
- ✓看護小規模多機能型居宅介護の利用で、インスリン注射・糖尿病管理が可能となった
- ✓利用者の生活全体の支援ができることが職員にとっての成長・喜びでもある

1. 利用者の基本情報

世帯構成	独居				
介護力	介護できる人はいない				
要介護度	要介護 1				
障害高齢者の日常生活自立度	B 2	認知症高齢者の日常生活自立度		III a	
	移動 一部介助	食事 見守り	排泄 一部介助	入浴 全介助	着替え 全介助
主な傷病	糖尿病				
必要な医療処置	・インスリン注射				
ターミナル期	ターミナル期ではない	病状の安定性・悪化の可能性		不安定・悪化の可能性あり	

2. 利用開始時の状況～住まいの整備支援～

○利用の経緯・生活環境の整備支援

- ・他法人の居宅介護支援事業所からの紹介であった。
- ・看護小規模多機能型居宅介護の利用開始前は、服薬管理のため、週1回の訪問看護と訪問介護を利用していた。ただし、週1回の訪問看護ではインスリンの注射を行うことはできていなかった。
- ・また、便や尿汚染があり、不衛生な状態・環境であった。
- ・看護小規模多機能型居宅介護の開始時点では、狭い階段で、階段を下りるのも無難しい状況だった。途中で本人が階段を下りることができず、外出するのを諦めてしまうこともあった。
- ・生活保護を受給していたため、市の生活保護の担当者とも相談しながら、転居を検討した。当事業所の隣接のアパートに転居することになり、契約や転居作業の手伝いも当事業所で行った。(なお、転居先のアパートと当法人との間には特別の関係はなく、また、同じアパートに当事業所の利用者は他にはいない)。利用者が以前行った転居のときは、作業を業者任せだったが、転居作業の手伝いを看護小規模多機能型居宅介護の職員にしてもらえたことで、利用者も喜んで、スタッフの受け入れもよりよくなった。

3. サービス提供の状況～食事の支援・清潔確保～

○利用開始直後のサービス提供の状況

- 利用開始直後は、月・木の週2回、通いを利用していた。通いの日以外の訪問（介護）は毎朝1回で朝食と昼食（スーパー等で購入）を持って行っていた。夕食は配食サービスを利用してもらっていた。ただし、配食は15時半ごろなので、それをすぐに食べているような状況であった。

	1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目	5 日 目	6 日 目	7 日 目	8 日 目	9 日 目	10 日 目	11 日 目	12 日 目	13 日 目	14 日 目
	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)
通い	○			○				○			○			
訪問(介護)		□ 1回	□ 1回		□ 1回	□ 1回			□ 1回	□ 1回		□ 1回	□ 1回	
訪問(看護)		☆ 1回			☆ 1回				☆ 1回					

○転居後の最近2週間のサービス提供状況

- 転居後は事業所と近くなったこともあり、送迎が容易になり、通いは週3回の提供となった。また、通いの時間以外の食事は、看護小規模多機能型居宅介護で提供している食事と同じものを朝・昼・夕の3食、届けている。（日曜日は、看護小規模多機能型居宅介護事業所の職員の人手が足りないので、別の事業所の配食サービスを利用もらっている。）（食事配達を行っているのはこの利用者1名のみである。）
- 朝食を届ける際には、あわせて清潔の確保を行う。
- また、1日3回、食事配達のタイミングで安否確認を行うことができている。
- 通いの送迎時に掃除やごみ捨ても行っている。
- 看護小規模多機能型居宅介護の利用開始前までは、インスリンの注射ができていなかったが、サービス利用開始後はインスリンの注射もできるようになった。

	1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目	5 日 目	6 日 目	7 日 目	8 日 目	9 日 目	10 日 目	11 日 目	12 日 目	13 日 目	14 日 目
	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)
通い	○			○	○			○			○	○	○	
訪問(介護)		□ 3回	□ 3回		□ 3回	□ 3回			□ 3回	□ 3回		□ 3回	□ 3回	
訪問(看護)		☆ 1回				☆ 1回			☆ 1回				☆ 1回	
インスリン注射のための看護師による訪問			(☆)							(☆)				

○利用者の生活全体を支えるサービスの魅力

- 看護だけでも、介護だけでもなく、生活全体を支えるサービスが提供できることは利用者側にはもちろんのこと、職員にも嬉しく思えることであり、職員にとって魅力的なサービスとなっている。